

フランスとの交流の歴史を紡ぐ CIR

世界屈指のラジウム泉「三朝温泉」を有する本町は、ラジウムの発見者であるキュリー夫人と温泉がご縁となり、1990年に南フランスの温泉地「ラマルー・レ・バン町」と友好姉妹都市提携の調印をしました。この交流を発展させるため、フランスからの国際交流員（CIR）を任用しており、現在のアラン・マリーさんで11代目となります。

本町におけるCIRの活動は、フランス語講座、料理教室、保育園・小学校での文化活動、大使館関係者等の通訳、友好姉妹都市へ毎年中学生を派遣する「手作り訪仏事業」の支援、町の魅力を動画で紹介する等、活躍の場は多岐にわたっています。

世界へ魅力を発信し誘客促進に取り組む

2015年に、特色のある日本の宝を広く国内外に発信する「日本遺産」第1号に「三徳山・三朝温泉」が認定された影響もあり、2018年の外国人来訪者は約2万人と、認定前と比較し5倍になりました。

町は「外国人観光客の更なる誘致には、外国人の視点での取り組みが必須」と考え、2019年1月にマリーさんを「三朝町インバウンドコーディネーター」に任命しました。

「インバウンドコーディネーター」という新たな活動として、自らが先頭に立ってメディアにも多く出演するなど、本町の魅力発信を行っています。また、SNSを活用し、外国人向けに英語やフランス語で分かりやすく町の魅力を発信し続けています。

地元に住居する外国人が、外国人観光客の誘致促進のために、自らの視点で魅力のある地域資源を掘り起こし発信する取り組みは、地域に対する愛着と熱意があってこそできることだと思います。

本町にとって、CIRの活動は、「人づくり」だけでなく「まちづくり」や「地域の振興」にも重要な役割を果たしています。今後その役割はますます大きくなることが予想されますが、町はCIRの能力を最大限発揮できるよう活動をサポートしたいと考えています。



三朝中学校でフランス料理教室（中央がCIR）



キュリー祭での駐日フランス大使の通訳（右側がCIR）



インバウンド向け情報発信「着物ウォーク in Tottori」